

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0572608230
法人名	有限会社 エネルギーのささき
事業所名	グループホームやまゆりの家
所在地	秋田県大仙市南外字下木直5 1 9番地4 (電話) 0187 - 73 - 1177
評価機関名	秋田県長寿社会振興財団
所在地	秋田県秋田市御所野下堤5丁目1-1
訪問調査日	平成20年11月14日

【情報提供票より】 (21年1月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年4月15日
ユニット数	2 ユニット
職員数	16人
利用定員数計	18人
常勤	14人
非常勤	2人
常勤換算	15人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	無	有 / 無	
食材料費	朝食	300円	昼食	300円
	夕食	300円	おやつ	100円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(1月1日現在)

利用者人数	18名	男性	7名	女性	11名
要介護1	1名	要介護2	6名		
要介護3	7名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 83歳	最低	67歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・仙北組合総合病院	・伊藤医院	・船木歯科医院
---------	-----------	-------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大仙市南外の自然あふれる環境の中に位置しており、法人代表者(管理者)自身の経験から培われた福祉理念を、地域の中へ還元していくことを目指して開設されたホームである。「私らしくあなたらしく、毎日が心豊かに過ごせるように、共に支え合い、たたえ合い、伸ばしあって、私達は共に歩む」という大変わがややすい運営理念が掲げられ、職員間のしっかりとした共通理解のもとで、個々の利用者のペースを十分に尊重した支援が行われている。それぞれの方の生活歴がきちんと把握され、ケアの中に活かされており、一人ひとりが生き生きとした表情で

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での要改善項目はなし。アセスメントにおける利用者の生活歴の記録の充実や、地域に根差したホームづくりに努めると共に、他のグループホームとの連携の強化を目指し、ケアの充実に活かしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	前回評価での要改善項目はなし。アセスメントにおける利用者の生活歴の記録の充実や、地域に根差したホームづくりに努めると共に、他のグループホームとの連携の強化を目指し、ケアの充実に活かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	隔月に開催される運営推進会議においては、ホームにおける実践内容の報告に加え、職員が参加した研修内容の報告等も行っている。質問等、委員の発言も活発であり、運営推進会議での討議の結果等をホームの運営に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	それぞれの利用者の家族の意見等は、面会の際などに聴取するほか、年1回の家族アンケートも行っている。苦情受け付け担当者の配置や、意見箱の設置なども行われているが、今のところ、苦情は寄せられていない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の自治会への参加や、清掃等の行事への協力など、積極的に地域へ出かけている。また、民謡等のボランティアや近くの幼稚園児の来訪、作物を届けてくださる方や花見等に招待してくださる方などもおられ、地域との密な交流が図られている。

2. 評価報告書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員の手によって、大変わかりやすい言葉でまとめられた運営理念が掲げられ、共通理解のもとで、ケアに活かされている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送りや会議の中で、運営理念を唱和しており、職員間で十分に共有され、常に理念に添った支援に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や除草活動・空き缶拾い等の地域活動へ参加し、悩み・困りごとなどの相談を受付ける等、地域との積極的な交流に努めている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価の実施にあたっては、職員それぞれが評価の意義を理解して取り組んでおり、更に、評価結果を改善し、よりよい支援を行えるように、職員間で十分に話し合っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者及び利用者家族、地域関係者、行政担当者などを交えた運営推進会議を、隔月毎に定期的開催し、検討した内容をサービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは、運営推進会議以外にも密な連絡を取り、連携を深め、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時の報告の他、ホーム全体の広報誌や個々の家族に宛てた便りなどにより、密な報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付担当者の周知及びご意見箱の設置の他、年1回のアンケートにより、家族の意見を伺い、運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はユニット間のみであるが、利用者へのダメージが少ないように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員の希望に応じて外部の研修に参加できるよう配慮されており、職員会議の場を利用した、法人内の研修も定期的に行われている。	○	経験年数などの段階に応じ、計画的に職員を育成するための取り組みが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他ホーム職員との合同の研修や、相互訪問を通じた交流が図られ、サービスの質の向上を目指した取り組みに活かされている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	入居前に、本人や家族から自宅での生活状況を聴取し、本人らしい生活ができるよう支援している。また、声掛けや対話を多くしたり、本人の好きな事を通じ、利用開始後も、安心して徐々にホームの生活に馴染んでいくことができるよう、様々な配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活の様々な場面において、職員が常に利用者の近くにおいて、喜怒哀楽を共にしており、学び支えあう関係がつけられている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの利用者の生活への思いや、意向の把握に努めると共に、利用者本位の対応を心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時等の話し合いや、家族が遠方の場合は郵送による確認などを行い、本人や家族の意見・要望などを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の職員会議及び毎日のミーティングにおいて、介護計画の見直しを行っている。3ヶ月毎の見直し及び6ヶ月毎の再アセスメントを基本としながら、利用者の状況に応じて個別に対応している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人代表者夫妻の協力を得ながら、利用者の要望に応じた柔軟な対応に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者一人ひとりが希望に添った、かかりつけ医やかかりつけ歯科医を受診し、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期への方針について話し合い、方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員それぞれが、一人ひとりの利用者の思いをしっかりと受けとめ、それぞれの誇りやプライバシーを十分に尊重した対応に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に添った入浴や近隣の商店への外出等、決まった日課を優先せず、利用者のペースや希望に添って生活できるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜ちぎりなど、役割を分担して、利用者と職員と一緒に、食事の準備や後片付けを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	入浴担当の職員が専任で支援しており、利用者ごとの入浴日は決めているが、時間帯や回数等、それぞれの希望に応じて柔軟に対応できるように努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や掃除など、日々の生活の中で、生活歴や力を活かした役割などを持つ事により、張り合いや喜びを感じて暮らしていけるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ショッピングセンターや道の駅などでの買い物・散策等、希望に添って外出する機会を持てるように配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	運営者及び全ての職員が、鍵をかけることの弊害を十分に理解してケアに努めており、日中は鍵をかけていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもとで、定期的に避難訓練を実施しており、地域住民へも参加を呼びかけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を詳細に記録し、バランスよく栄養がとれるように配慮されている。また、地域の特別養護老人ホームの栄養士から献立のチェックを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく眺めのよい食堂兼居間は、ゆったりとしており、利用者それぞれが、居心地よく過ごせるように配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりが、それぞれの思いに添った使い慣れた家具等を持ち込み、落ち着いて過ごせるように配慮されている。		

※ は、重点項目。